

日本土壤微生物学会名誉会員推薦書理由書

服部 勉 東北大学名誉教授 (会員番号1077)

1932年7月8日生

【推薦理由】

服部 勉氏は、1955年に東北大学大学院に入学後、直ちに土壤微生物学の重要問題に挑戦する研究を開始され、1996年に東北大学を定年退職されるまで、40年間もの長きにわたって土壌の未知なる微生物世界の探求に邁進されてきました。その探究心は、今日まで衰えることなく、直近の本学会大会まで間断なく参加され、土壤微生物学の今日的課題に肉薄されています。

同氏の40年以上の研究のなかで、希釈平板法という実験技法は一貫した探求テーマであり、その追究を通して土壤微生物学の根幹的な問題を発掘して解決してきました。その初期の代表的な研究成果として、希釈平板法における土壌の分散の問題から、微生物のミクロな住み場所の概念を導き出し、団粒モデルに発展させた一連の研究があります。この成果は、同氏の英文著書、“Microbial Life in the Soil, An Introduction” (427 pp., Marcel Dekker, Inc., New York, 1973)、の中核に位置づけて解説され、土壌の構造と微生物の生態を体系的に捉えようとした斬新な教科書として世界的に評価されています。さらに、「土壌細菌の微視的環境に関する研究」という業績題目によって、1975年度に日本土壤肥料学会賞を受賞されました。

同氏は、希釈平板法での培地成分と培養時間にも着目して、前者からは有機物や塩類に感受性があり、微量栄養条件でも増殖できる低栄養細菌（オリゴトロフ）が土壌中に数多く存在することを明らかにし、後者からはコロニー形成曲線としてモデル化し（FORモデル）、細菌の系統グループとコロニー形成に至る増殖速度との間に関係があることを明らかにしました。オリゴトロフの研究では、土壌に限らず水圏の微生物研究者と交流する場を作り、オリゴトロフの研究コミュニティの拡大・発展にも寄与されました。

以上の長年にわたる土壤微生物研究の卓越した成果に対して、2007年度に、日本農学会賞及び読売農学賞（業績題目、「土壌微生物とその生息環境に関する研究」）が同氏に授与されています。

同氏は、日本土壤微生物学会においては、1992年から1994年にわたって会長として、本学会の発展に多大な貢献をされました。以上に述べたように、同氏は、名誉会員候補者の推薦基準、1)本学会会長の経歴を有する者、2)本学会の発展に多大な貢献をした者、3)優れた業績により、土壤微生物学の発展に特に功労した者、のすべてを満たしており、ここに名誉会員に推挙いたします。

2019年4月22日

推薦人

黄 敬淑 牧園大学 教授

会員番号 2599



橋本 知義 農研機構・農業環境変動研究センター
物質循環研究領域長

会員番号 1073



太田 寛行 茨城大学 理事・副学長

会員番号 1364

